

詩の香り

こころの奥に届き  
こころを包み込み  
こころに座り続ける

彼方の世界との対話  
魂の核からのことば

すつと風が吹いて  
本来の場所へ連れていく

作者をわすれ  
詩、そのものとして立ちあがる  
意味をもとめない  
ただ、詩の香り漂う

そんな詩に  
出会いたい  
そんな詩を  
紡ぎたい